

1 倉橋惣三について (1882~1955)

大正から昭和にかけて、日本の幼児教育の理論的な指導者

児童中心の進歩的な保育を提唱し、幼児教育界の発展のために貢献した。

<倉橋の経歴>

- ・ 第一高等学校・東京帝国大学文学部哲学科卒業（在学中より、東京女子高等師範学校附属幼稚園・1876年に設置されたわが国初の幼稚園）に来訪し、子どもたちと遊ぶことを楽しみとした。）
- ・ 1910（明治43年）年 東京女子高等師範学校（現お茶の水女子大学）に着任・ 才
- ・ 1917（大正6）年12月 同校教授・附属幼稚園主事・主事は3度務める。・・・ 才
- ・ 1949（昭和24）年 退官・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 才

<倉橋の思想>

幼児の生活の（ ）を認め、幼児の（ ）な生活を保障することが必要である。
幼児自身に、自ら育とうとする力がある。幼児にはありのままの生活を送らせよう。

2 「育ての心」(1936) について

実感の書。 実際の現場のなかで直感的にとらえ、ありのままに描いたもの。保育者論。「体系を辿って書いたものではない。理論におわれて書いたものでもない。・・・その実際と実践のままに即して書いた実感の書である。」

1) 「こころもち」・「廊下で」・・・() する心

子どもと今の感情を共有する。

子どもを科学の対象としてではなく、「共に生きる者」ととらえる。

すでに子どもではない大人は、子どもと共に生きる者として、いかに子どもと世界を共有するかが重要である。

「今のこころもち」に生きている「この子どもの今」に向き合うことが重要である。

2) 「子どもらが帰った後」・・・() する心

保育を振り返り、考察を深める。

もっと読みたいひとへ

倉橋惣三文庫 育ての心 (上) (下) 倉橋惣三著 フレーベル館

文責 草信

